

## 市民の皆さまのおかげです 全国広報コンクール入選



「広報四国中央」令和4年10月号が、「令和5年全国広報コンクール」（公益社団法人日本広報協会主催）の広報紙部門で入選しました。

自治体の優れた広報紙やウェブサイトを表彰するこのコンクールで、本市が入選するのは今回が初めてです。「より分かりやすく、読みやすく」をテーマに昨年から進めてきた取り組みが「令和4年愛媛県市町広報コンクール」の特選に続き、全国でも評価していただくことができました。

入選した10月号の特集記事「脳卒中から命を守るために」は、実際に脳卒中を発症した森田さんを始め、関係者の皆さまにご協力いただいて制作しました。市民の皆さまのおかげでいただいた賞を励みに、今後も魅力的な紙面づくりに努めてまいりますので、引き続きのご協力をお願いします。



特集記事「脳卒中から命を守るために」



大賞を受賞した田中尊さん（写真奥）と発表会を運営した高校生企画員たち



## はじける我らの『書道愛』 第16回大会ポスター発表！

4月14日、第16回書道ハフォーマンス甲子園のポスターが発表されました。このポスターに使われたキービジュアルは、今大会のキャッチコピー「はじける我らの『書道愛』」をテーマに、今回初めて全国の高校に公募。応募作品の中から、高校生企画員40人の投票により、田中尊さん（埼玉・本庄東高校2年）の作品が大賞に選ばれました。

【表紙、4〜7ページに関連記事】



## （株）大昌鉄工所 喜んでもらうためのモノづくりに 文部科学大臣表彰

科学技術に関する研究開発、理解増進などに顕著な成果を収めた人を表彰する「令和5年度科学技術分野の文部科学大臣表彰」に、株式会社大昌鉄工所（福岡祥正代表取締役社長・川之江町）の高橋真一さん（写真左）と大西勝広さん（写真右）が輝きました。

2人が受賞した「創意工夫功労者賞」は、優れた創意工夫で技術の改善や向上に貢献した人に贈られるものです。2人は「新しいものを作るといことは、トライアンドエラーの繰り返しです。今回、こうした名誉ある賞を頂くことができましたが、これを特別なことと思わず、これからもお客さまに喜んでもらうモノづくりを続けます」と話してくれました。

## 緑鮮やかな茶畑で 新茶の茶摘みが始まる



4月下旬、新宮町で新茶の摘み取りが始まりました。協製茶場では朝から茶摘みを行い、集めた新芽をすぐに蒸し上げています。脇純樹専務は「今だけの新茶の香りを楽しんでほしい」と話してくれました。

## おいしく育てね 学校給食米の田植え体験



4月22日、土居町蕪崎の会場には、児童や保護者など170人以上が集まり、泥に足を取られながらも丁寧に苗を植えていました。8月下旬には児童らが稲刈りを行い、市内小中学校の給食で提供されます。

## 元気に大きくなあれ 市内園児が稚アユを放流



5月11日、金生川と銅山川で行われた稚アユの放流事業に市内の園児約190人が参加しました。園児たちは川に放たれた稚アユを見て「元気に大きくなってね」と優しい言葉を掛けていました。



要望書を篠原市長に手渡す三宅議長

## 子育て環境の更なる向上を 市議会が学校給食費無償化の要望書を提出

4月21日、市議会議員一同の総意により、国の臨時交付金を活用した学校給食費等の支援を求める要望書が篠原市長へ提出されました。

この要望は、昨年度市が実施した学校給食費と教育保育施設副食費の一時無償化を継続し、物価高騰の影響を受ける保護者への支援を求めるものです。

三宅繁博議長は「給食費の無償化は、子育てをする上で重要。子育て世帯を応援したい」と要望しました。

篠原市長は「保護者の負担をなるべく減らすことは時代の要請であり、これから行政としてどこまで応えられるかが勝負になる」と子育て支援策の拡充に向けた考えを示しました。

【21ページに関連記事】



## 本市と住友生命保険相互会社 健康増進に関する連携協定を締結

5月2日、市民サービスの更なる向上と、地域社会の発展を目的に、本市と住友生命保険相互会社（小野祐也新居浜支社長）は、健康増進に関する連携協定を締結しました。

健康状態の把握と改善を目的としたさまざまな取り組みを行っている両者が連携することで、市民の皆さまの健康寿命の延伸につながることが期待されます。

小野新居浜支社長は「当社とゆかりの深い東予エリアで、早期の協定締結ができたことに感謝している。今後も、地域に健康意識が広がるように、そして市民の皆さまの更なる健康増進のために、市の事業に協力するなど、連携を図っていききたい」と話しました。



ちよつとそこまへ  
**広報 SAMPO**



製紙の歴史を後世に  
川之江紙漉き唄歌碑  
(紙のまち資料館東・川之江町)  
川之江紙漉き唄の歌詞が刻まれ、現在も続く紙漉きの歴史を伝えています。



満開のツツジ並木 (妻鳥町～下柏町)  
まちを彩る白やピンクの花々に、ミツバチたちもうれしそうでした。



令和5年度 愛媛県市長会春期会議

四国の真ん中で自治体の未来を考える  
**愛媛県市長会春期会議が本市で開催**

4月24日、県内11市の市長などが一堂に会した「愛媛県市長会春期会議」がしこちゅくホールで開催されました。  
篠原市長が議長を務めた今回の会議では、DX推進や福祉、教育、防災など地方自治体の課題を解決するため、国に補助制度や対策を求める要望など14項目を審議。全ての項目を四国市長会へ提出することになりました。

本市からは子どもを安心して生み、育てることのできる環境づくりのため、拡大大新居スクリーニング検査の充実した体制整備の推進と補助制度の創設を求めました。

また、災害時の市民の安心・安全の確保と地域経済の更なる発展のために、国道319号新法皇トンネルの早期着手を求める要望を提案しました。

**市長のひとりごと**

梅の花はもちろん、さくら、菜の花など冬から春を呼ぶ樹々も、華やかな花も、太陽の季節とともにポジションを交代して、時節到来まで表舞台から一歩下がっている。けれど、山の緑は彼らが頑張っていることを証明している。

4月から連休過ぎて、ひと昔前なら、この雨では麦が刈れないなど農家の人のぼやきが出そうになるくらいの雨量に恵まれた。この夏は水の心配をそんなにしなくても済みそうだな・・・そうはいうものの油断禁物ではあるが・・・と思わせてくれている。花火も湖水まつりも、コロナ次第ではあるが、十分やれそうである。

**こけないで、ふんばるのが大事なのだ！**



なみなみと水を蓄えた金砂湖 (金砂町平野山・5/22 撮影)

すべてがうまくいくとは思わないが、事業活動や家族の健康、四国中央市の懸案課題、例えば城山下臨海土地造成事業、中核病院の整備、公営住宅環境整備、幹線道路延伸、港湾の高度改修など、関係者の努力により一歩ずつ前進している。大河の一滴の一滴を大事にしてがんばるのだ。

夏の暑さに負けないように踏ん張っていくのだ！



四国中央市長 篠原 実